

タイトル

目に見えないインフラだからこそ ～わが街の下水道のいま、そしてこれからを考える～ 東久留米市下水道事業・ポスター展示会

市民の暮らしを支える下水道ですが、いま多くの課題に直面しています。将来にわたって安定したサービスを続けていくため、東久留米市の下水道の現状と課題をお伝えしつつ、皆様とともにこれからの下水道について、考えていきましょう。

下水道の基本的な役割について

汚水の処理による生活環境の改善

家庭や工場から排出された汚水を処理して、快適な生活環境を確保します。

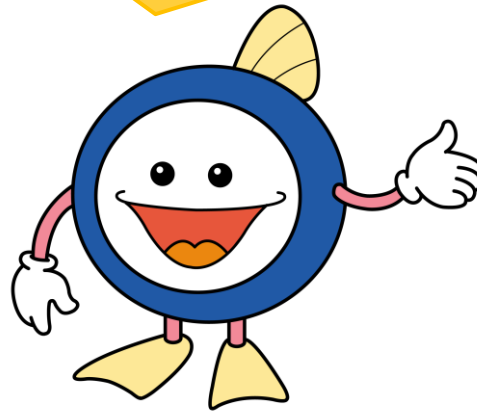
雨水の排除による浸水の防除

道路や宅地に降った雨水を速やかに排除して、浸水から街を守ります。

**下水道には、
いろいろな役割があります。**

河や海などの水質保全

下水を処理し、きれいにした水を川や海に放流することにより、その水質を改善し、保全します。



下水道イメージキャラクター
©スイスイ・(公社) 日本下水道協会

新たな役割

再生水や下水熱など下水道が持つ資源・エネルギーの有効利用や下水道施設の上部空間の利用などにより、良好な都市環境を創出するという新しい役割を担っています。

(東京都下水道局HPより)

【知らなかった！下水道の基本】

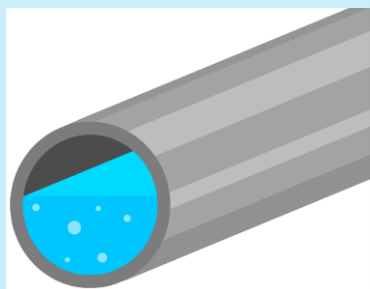
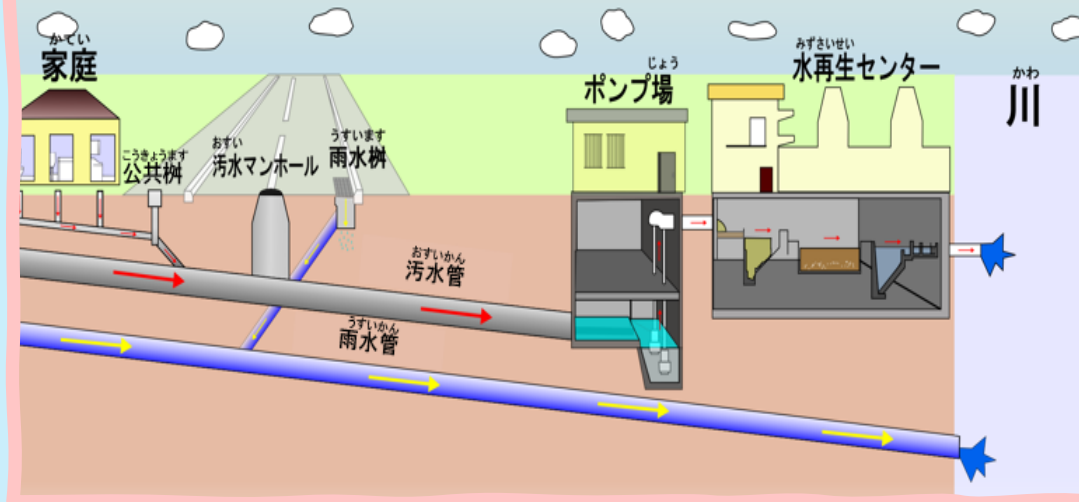
下水道を流れる二種類の水～汚水と雨水～

下水道は、家庭や事業から出た排水である汚水と、自然の雨を集めた雨水という二種類の水を運んでいます。

下水道管の排水方式～分流と合流～

下水道管には汚水と雨水を同じ管で流す合流式と、別々に流す分流式があります。東久留米市はすべて分流式です。

東久留米市の下水道



下水道の費用について

下水道にかかる費用の負担は、「雨水は税金(公費)」
「汚水は使用料(私費)」と区分されております。

汚水

流した水はどこへ？私たちの暮らしと下水道のつながり

トイレや台所、お風呂から流した汚水は、どこへいくのでしょうか？私たちが使った汚水は、地面の下にある「汚水ます」や「汚水管」を通り、最終的に清瀬水再生センターへと集められます。

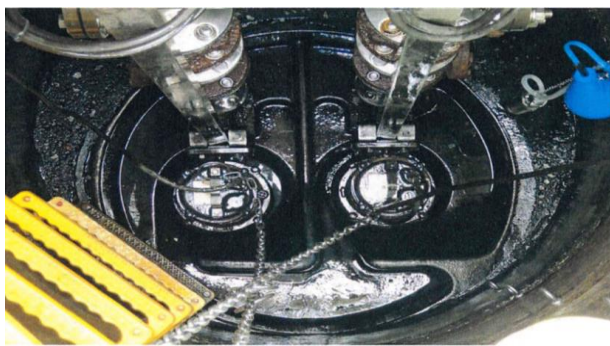


©スイスイ

～下谷ポンプ場～



～マンホールポンプ～



これらのポンプは、市内の高低差（地形）によって自然に流すことが難しい汚水を、機械の力によって処理場へ押し上げる装置です。

市内には、高低差もあるため、途中、それを補う「中継ポンプ場」や「マンホールポンプ」を経由しながらスムーズに運ばれ、センターできれいな水に処理されてから、ようやく川へと放流されています。

きれいな水へ変える技術！清瀬水再生センター

清瀬水再生センターは、都の流域下水道本部によって運営され、当市をはじめ、9市の自治体の汚水を処理しています。その維持管理や処理にかかる費用(流域下水道維持管理負担金など)は当市も負担しています。



図 1-4 荒川右岸東京流域下水道（荒川右岸処理区）の概要

下水処理場のイメージ

(公社) 日本下水道協会HPより



汚水が汚水管を通して最終的に辿り着く場所が下水処理場です。流入した汚水は、沈砂池、最初沈澱池、反応タンク、最終沈澱池、消毒設備を通して浄化された水は、川や海へ放流されます。

毎日プール90杯分!? 数字と歴史で知る、東久留米の下水道

いつから?

- ・昭和39年11月 事業認可 ←東京オリンピック開催年度と同じです
- ・平成15年度 汚水処理人口普及率100%達成←約40年で達成しました



どれぐらいの長さ?

- ・下水管延長(汚水)303.9km←東京から仙台までの距離と同じです

どのぐらいの排出量?

- ・1日の平均汚水量33,500トン←25mプール約90杯分!
(25mの一般的な大きさ370トンで換算)
- ・1人1日あたり287リットル←お風呂約1.4杯分です
(一般的なお風呂の湯量200ℓで換算)



約半世紀の歴史!
まちを巡る300キロ!
プール90杯分の処理!
下水道に休みなし!

快適な環境のため、市からのお願い

～東久留米市ホームページより～

①下水に異物を流さないでください

下水道に異物が流入すると、下水道管やポンプなどが詰まり、トイレや台所から流された汚水がマンホールから路上にあふれ出たり、ご自宅のトイレや台所、お風呂に汚水が逆流し使用できなくなります。

【下水道に流してはいけないもの】

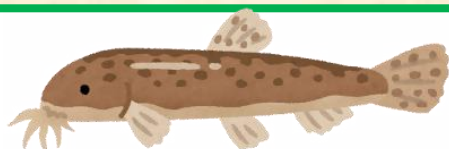
分類	具体例
水に流せない紙類	紙オムツ、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、生理用品、たばこの吸い殻 など
布類・衣類	タオル、ぞうきん、下着、ハンカチ など
油類	食用油、エンジンオイル など
食べ物くず	野菜くず、食べ残しなどの固形物



©スイスイ

②下水管への接続はお済みですか？

公共下水道の整備は平成15年度末に完了していますが、いまだ公共下水道への未接続が見られます。未接続の場合、浄化槽を利用していても、トイレ以外の洗濯や流しなどの排水や汚水は直接河川に流れ込み、汚濁の原因となることから、公共下水道が整備されている区域では、遅滞なく公共下水道に接続することが法律で義務付けられています。また、くみ取り便所は、水洗トイレに改造しなければなりません。



清らかな川を残したい、いつまでも

大雨へのそなえと良好な水辺空間の創出



気候変動により、台風や豪雨による道路の冠水や浸水害のリスクが高まっています。
市では、冠水対策として、雨水を排除する施設を順次整備しています。



実施した浸水シミュレーションの結果を踏まえ、東久留米市では雨水管理総合計画の策定を進めており、これにより雨水管の整備などのハード面と、浸水マップの作成などのソフト面からの対策を、計画的に推進することとしています。

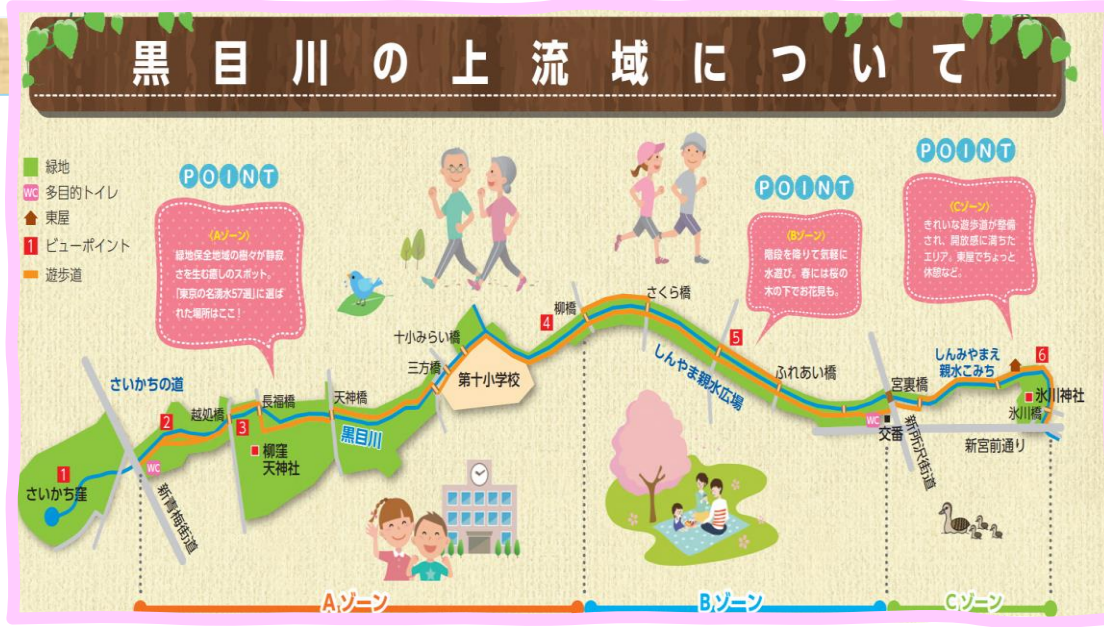
▲過去の東久留米市内の冠水状況(右の画像も同じ)

東久留米市の黒目川上流域・親水化事業について

市では、川に雨水幹線(大量の雨水を排除する雨水路)としての役割をもたせつつ、人々が川辺に近づき、水と親しめるよう良好な水辺空間の創出を図ることを目的に、黒目川上流域親水化事業を行いました。



黒目川の上流域について



安定的な下水道事業運営を維持するために、いま考えなければならない課題について

課題1 物価高騰がインフラを直撃

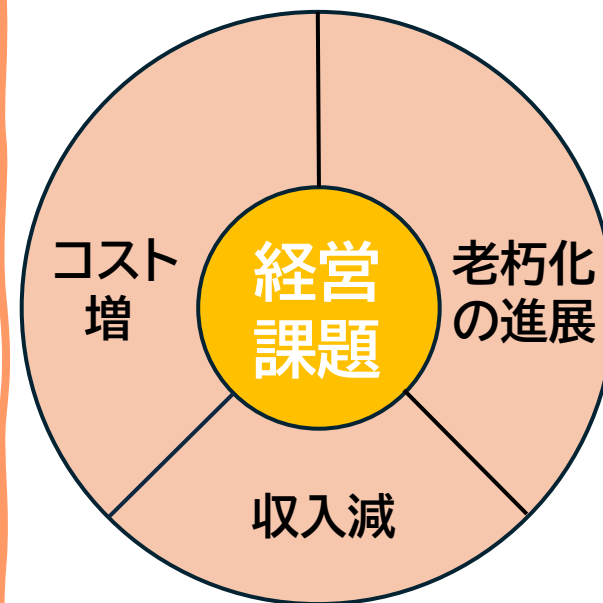
下水道管等の維持管理に係る工事に必要な資材や労務単価が上昇しています。また、他自治体と共同で運営する流域下水道維持管理費も増加しています。

課題2 見えない地下で進む老朽化

昨年1月に八潮市で下水道管の老朽化が原因で道路の陥没事故が発生し、下水道施設の老朽化が社会問題として注目されています。

課題3 将来的な人口減少による収入の落ち込み

少子高齢化による将来的な人口減少と、それに伴う下水道使用料収入の落ち込みが予想されています。



それぞれの課題について、考えてみましょう。

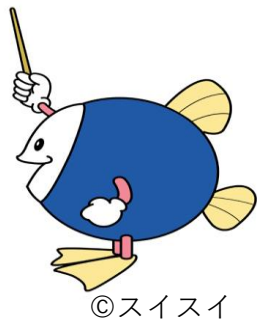
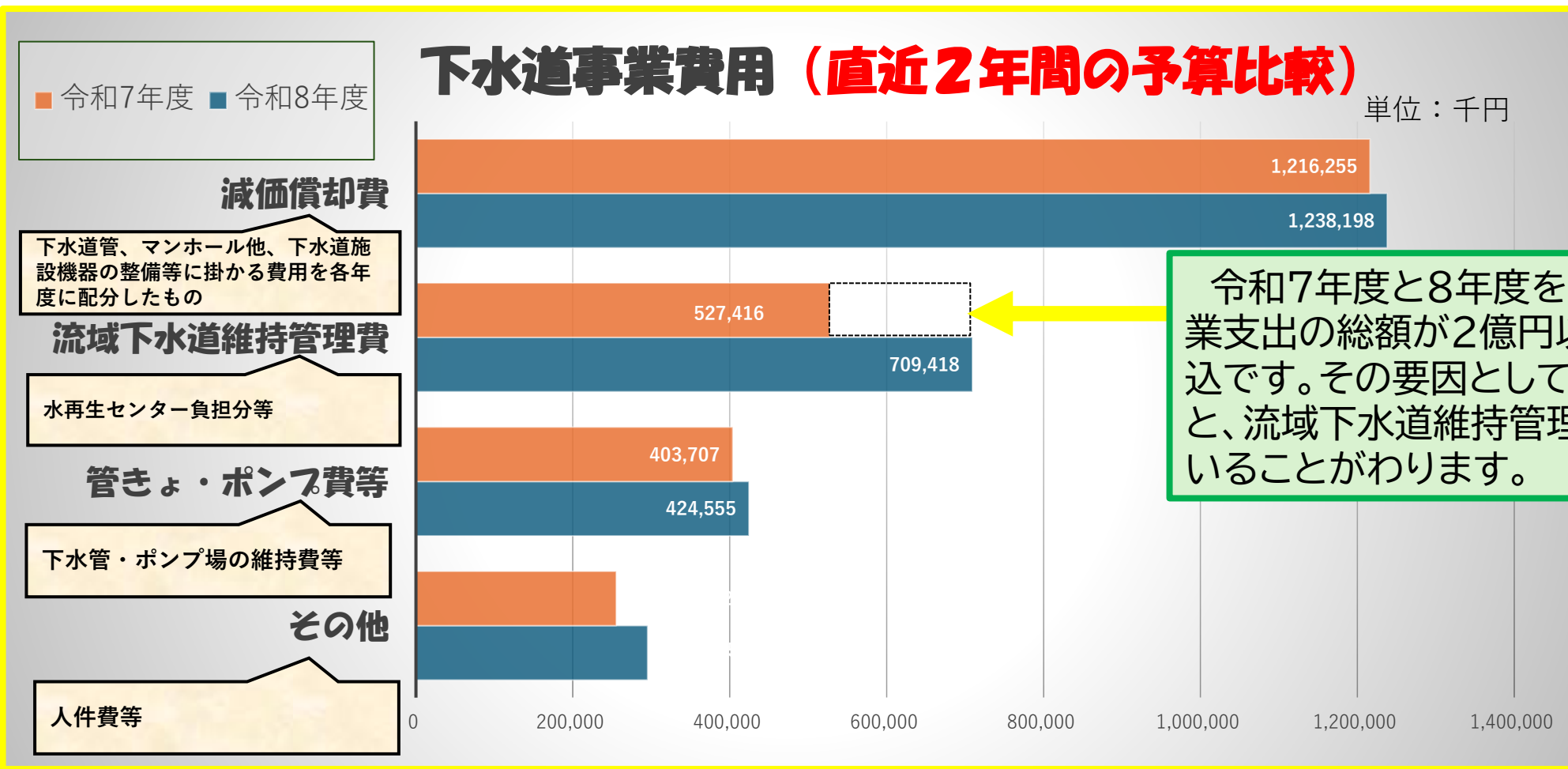


課題 1

貴重な下水道使用料の使い道 物価高騰がインフラを直撃！

令和8年度の下水道事業の事業収入は26億6,349万4千円で、その大半が下水道使用料です。
一方、事業支出で一番多いのは減価償却費(設備投資を費用として各年度に配分したもの)で、次が流域下水道維持管理費(水再生センターで下水処理にかかるお金等)となっています。

※数字は予算ベース



課題2

見えない地下で進む老朽化…大きなリスクが！

市内の下水道管や施設は、使い始めてから50年以上が経過したものがあり、老朽化が進んでいます。

適切にメンテナンスをしないと、ある日急に使用できなくなることや、道路陥没などの思わぬ事故が起こる可能性があります。



このため、市では施設の計画的な更新や長寿命化を図る事業(ストックマネジメント事業)を通じて、私たちの生活に欠かせない下水道を守るべく、増え続ける老朽化が進む施設の維持管理の対応に追われています。

市内の污水管のうち、約60km分が50年（耐用年数）以上経過しています。



©スイスイ

(単位は百万 m^3 /年)

有収水量の推移予測



課題3

将来的な人口減少による有収水量の減少

将来的な人口減少により、有収水量※が減ることが予想されています(左グラフ)。

その結果、下水道使用料収入の先細りから、将来にわたり、安定的、かつ持続可能な下水道運営が立ち行かなくなる恐れがあります。

※有収水量…污水处理水量のうち、不明水などを除いた実際に使用料収入の対象となるもの

下水道経営の未来について

東久留米市の下水道経営について、市では令和7年度に東久留米市下水道事業経営戦略-2026-を策定しました。その中で、経費回収率の向上に向けた令和17年度までのロードマップを取りまとめました。

業績指標及び目標年限

経費回収率及び経常収支比率を業績指標とします。中間年度である令和12年度及び計画最終年度である令和17年度の時点でも引き続き100%以上となることを目標とします。

使用料改定の必要性

人件費や物価の高騰、施設の老朽化に伴う支出増により令和8年度以降経費回収率が100%を下回ることが見込まれるため、下水道使用料の改定が必要です。

収入増加の取組

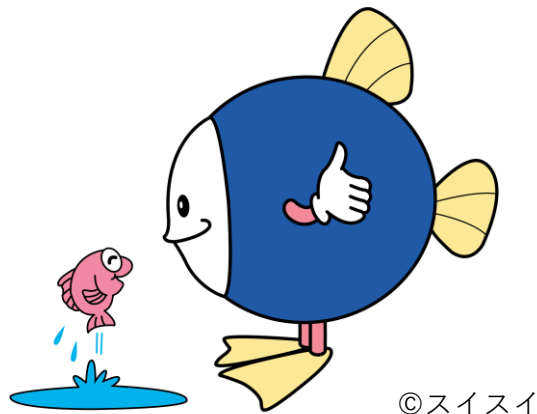
令和9年度までに使用料の改定を行うことで収入の増加に取り組めます。

経費削減の取組

ストックマネジメント実
施方針に基づき、施設
管理費用やライフサイ
クルコストの削減に継
続して取り組みます。

定期的な検証と見直し

既存施設の維持管理
や改築更新にあたり、
適正な財政計画が必要
となるため、決算
状況を活用し、3～5
年を目安に使用料水
準及び収支に関する
見直しを行います。



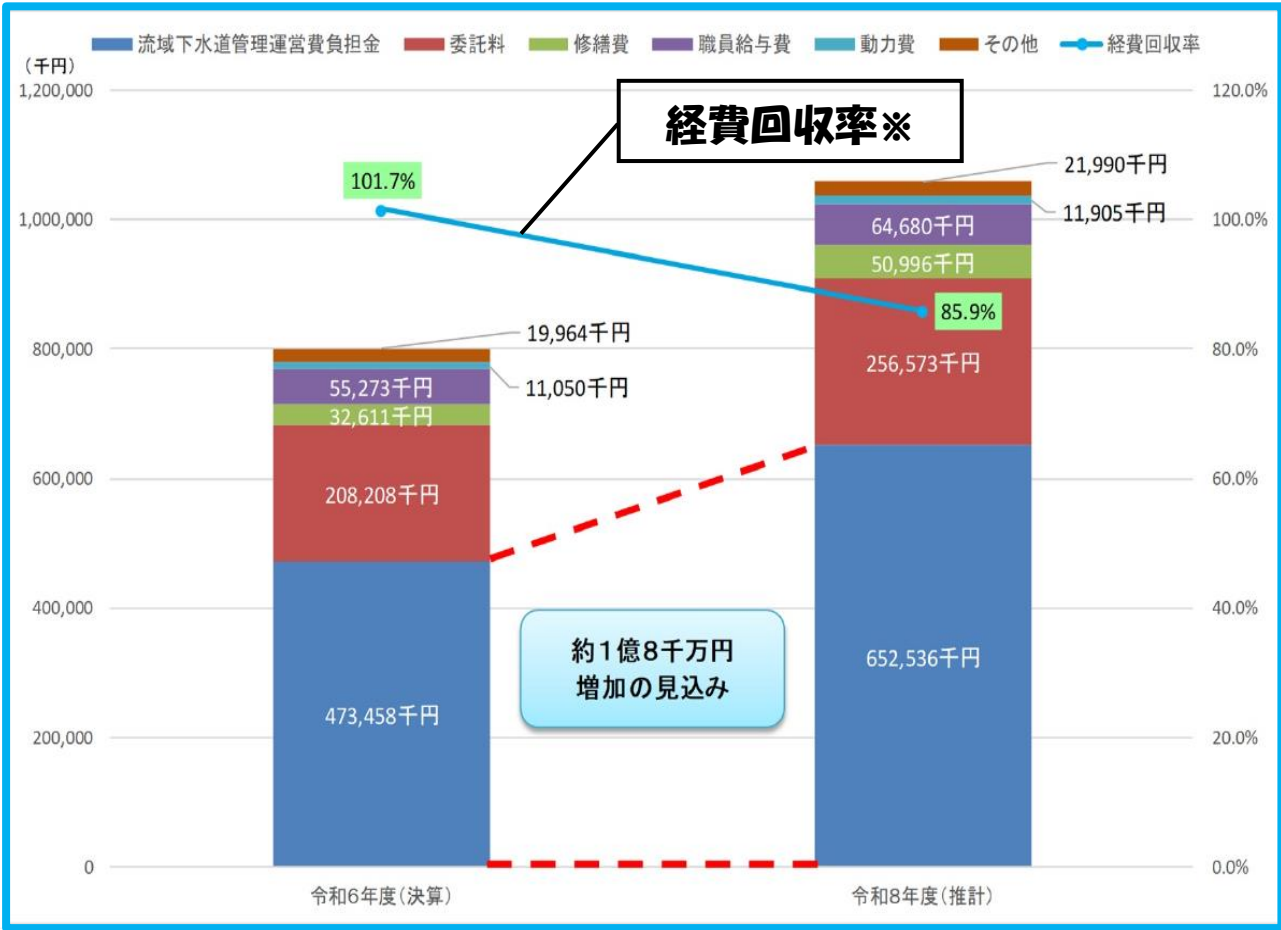
経費回収率の向上に向けたロードマップ

項目			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	
経営指標	①	経費回収率	101%							100%以上					100%以上
	②	経常収支比率	102%							100%以上					100%以上
取組項目	①	経営戦略の改定、使用料水準の検討		●						●				●	
	②	使用料の改定				●									
	③	ストックマネジメントに基づく設備管理													

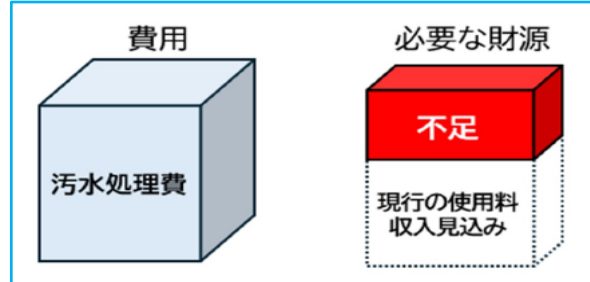
安定的な下水道サービスのために、今そこにある危機～財源不足と不断の経営努力

これまで見てきたように、水再生センターの処理に係る費用が増えていくことを始めとして、施設の老朽化対策や物価高騰などにより、下水道事業全体の維持管理にかかる費用が増えています。

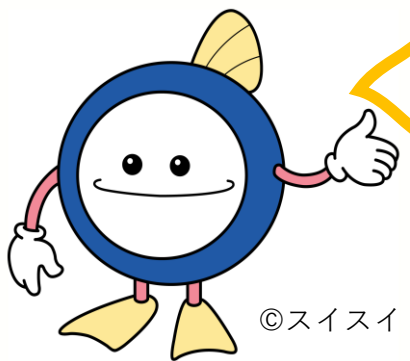
污水处理費のうち維持管理費と経費回収率の推移



経費回収率…使用料で回収すべき経費を、どの程度まかなえているかを表す指標。



東久留米市では、平成25年より13年間下水道使用料を改定していませんが、このままでは毎年必要な財源の不足分が発生する見込みとなっています。

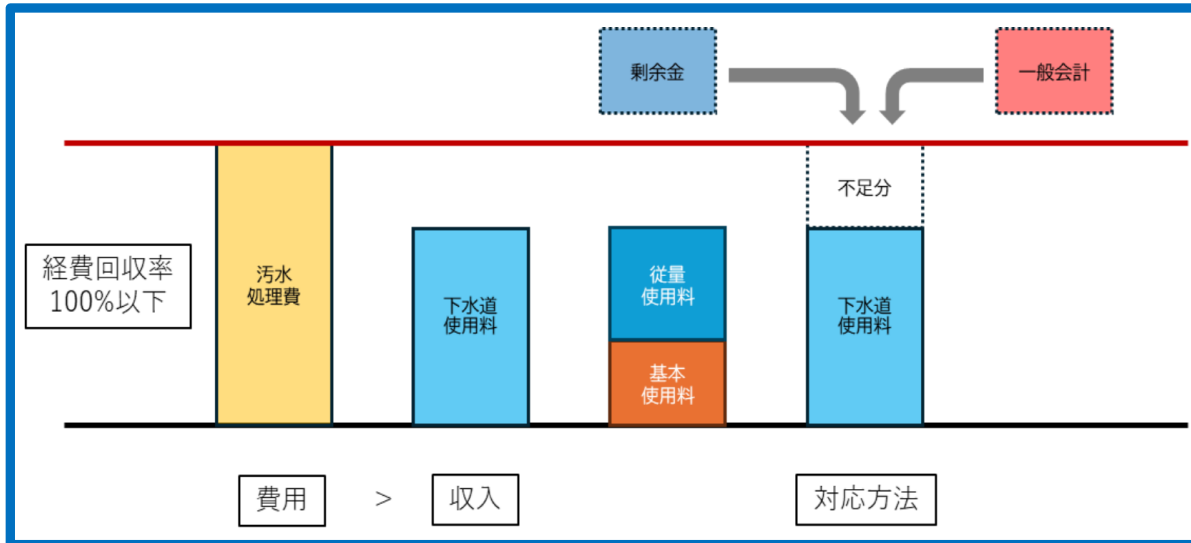


©スイスイ

このように流域下水道維持管理費の増大(41%も!)や物価高などにより、経費回収率が100%を割り込んでしまうと、どうなるのでしょうか？
(次へ続く)

もし、経費回収率が100%を割り込むと…

財源の不足分は、まず剰余金からの繰入が必要となりますが、このままだと剰余金は令和9年度中に枯渇し、一般会計からの繰入が必要となります。



適切な下水道財源の確保について

他への事業へしわ寄せを避けるためには、右図のように汚水処理費に見合う下水道使用料に改定する必要があります。昨年度策定した経営戦略-2026-では、令和9年度に使用料の改定率21%が必要であると試算されました。

経費回収率の状況（100%と100%未満の場合）

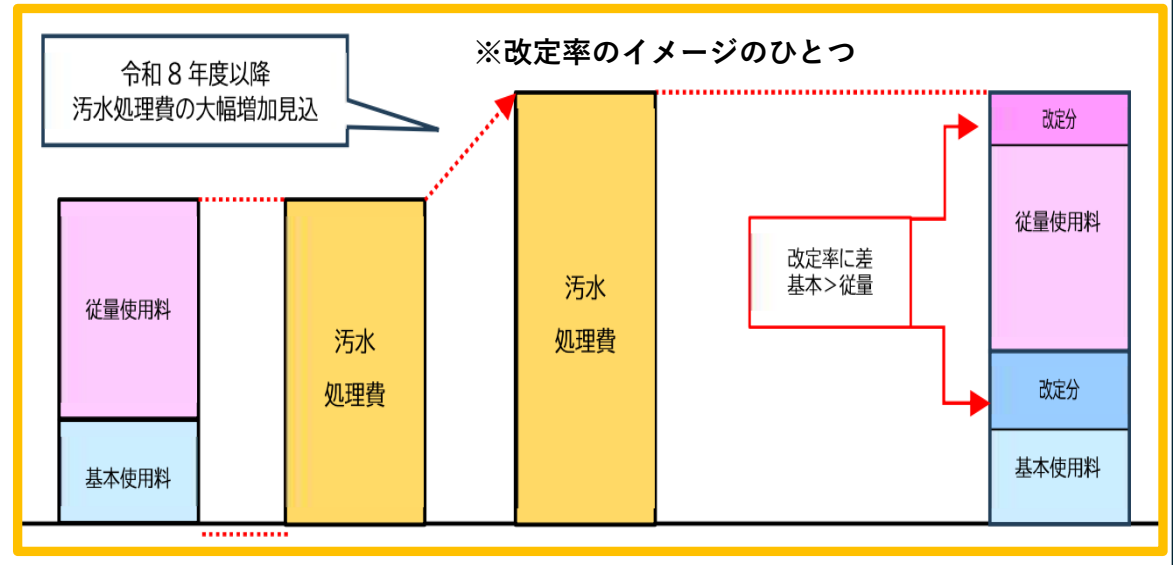
【事例1】経費回収率 100%（自己完結）



【事例2】経費回収率 100%未満（外部依存・しわ寄せ）



しかし、一般会計から不足分を繰り入れた場合、福祉や子育てなどで使われるはずだったお金を使うこととなり、他の事業へしわ寄せが行くことになってしまいます。



持続可能な下水道事業の経営に向けた市の取組

ストックマネジメントによるコスト抑制

策定した実施方針に基づき、管渠やポンプ場施設の点検・調査を計画的に進めています。これにより、劣化による道路陥没等の潜在的风险を未然に防ぐ予防保全対策を講じ、将来的な更新投資の平準化とライフサイクルコスト(LCC)の最小化(経費削減)を両立しています。



老朽化した下水管を更新

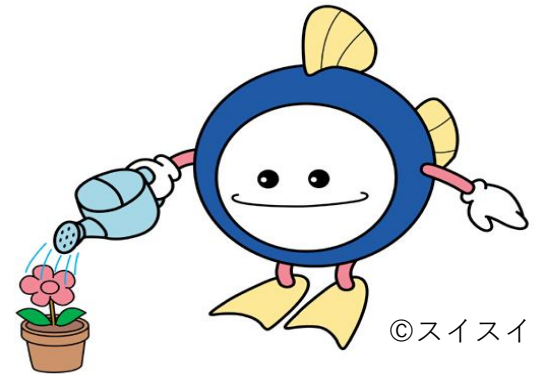
民間活用の推進

今後の更なる経費削減や投資額の平準化・削減効果を目指し、官民連携手法である「ウォーターPPP」の導入に向けた検討等、取組を進めております。

市では、下水道事業を持続可能かつ自立的なものとするため、組織・施設管理の両面で経営の効率化および健全化に努めています。

財源の有効活用

国や東京都の補助金を積極的に活用するとともに、企業債についても将来の負担が過大とならないよう計画的に活用しています。



©スイスイ

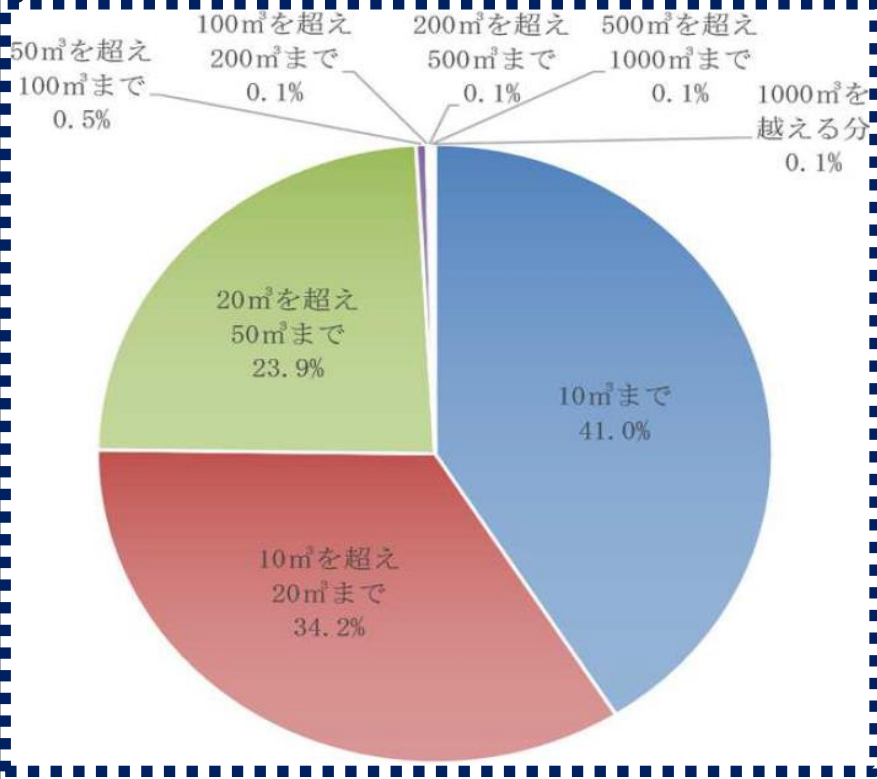
適正な執行体制の維持

下水道事業の運営にあたっては、これまで現状の限られた体制（下水道計画担当4名、下水道施設担当5名）で業務を継続しています。一方で、下水道台帳の電子化や申請のオンライン化を進め、さらなる効率的な運営を目指しています。

下水道使用料改定の方向性について

下水道事業収入の大半を占める、大切な下水道使用料。将来を踏まえた改定の方向性を考えます。

排出量別使用者の割合

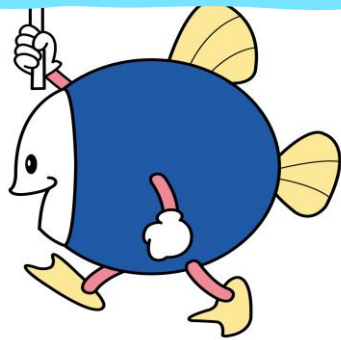


上の図は、市内の下水道使用者の排出量の割合のグラフです。1ヶ月あたり20m³以下の使用者が相当数いることがわかります。

下水道使用料の体系について(1か月あたり)

排水量 (m³)	現行 (円)	改定率 21%	
		改定後 (円)	差額 (円)
0	690	835	145
10	690	835	145
20	1,940	2,355	415
30	3,560	4,325	765
50	6,800	8,265	1,465
100	17,300	21,015	3,715
200	41,400	50,215	8,815
500	128,400	155,515	27,115
1000	290,400	352,015	61,615

※表で示された改定率は経営戦略2026で試算した改定率21%のシミュレーションの例です。



これからの下水道を話し合う会議を開催しています

【東久留米市下水道使用料等検討委員会について】

今後の下水道使用料のあり方について検討するため、下水道使用料等検討委員会を開催しています。

この検討委員会は、学識経験者、産業関連団体関係者、公募による市民等で構成されています。

《第1回(令和8年7月23日開催)の内容》

論点①:経費回収率100%(自立的な経営方針)の是非について

論点②:下水道使用料の減免制度について

論点③:改定の実施時期について

《第2回(令和8年8月4日開催)の内容》

近日中に市ホームページにて公開予定です。

《第3回下水道使用料等検討委員会(次回)》

【開催日】令和8年9月下旬予定

【開催場所】東久留米市役所

※詳細については、東久留米市ホームページで公開予定

※これまでの会議内容については、市のホームページで会議録を順次掲載

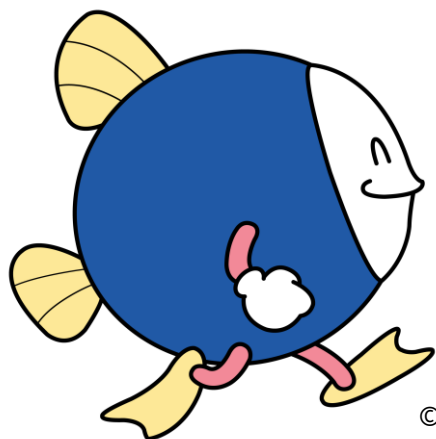
傍聴することができます！



詳しくは、こちらの
QRコードから
ご覧ください。



©スイスイ



©スイスイ

**いつも東久留米市の
下水道事業にご理解を賜いまして、
ありがとうございます！**

普段は目に見えない下水道ですが、市としては、これからも皆さまの快適な暮らしと安全な水環境を守り続けてまいります。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。